

塾長の海外指導

これまで塾長は多くの国で合気道を指導してきました。

小林保雄先生、五十嵐和男先生に同行させていただいたり、単独で出かけたり、その国を書き出してみると、ハワイ、台湾、ドイツ、カナダ、フィンランド、スウェーデン、エストニア、ポーランド、ブラジル、ギリシャ、ハンガリー、イギリスなどに渡って合気道を指導してきました。

寒稽古の講習会で一番寒い2月に毎年出かけるハンガリーは合気道小林道場の内弟子経験を持つラスロ先生の合気道神武館道場（エステルゴン）ですが、最近はケチケメートの合気道澄明道場、ショプロンの合気道明心道場にもよく行っています。

ポーランド・オルシュティンはトマス先生の合気道正勝道場、ギリシャ・アテネのアダム先生の合気道皇武館道場などにはハンガリーの前後に、また別の月にと比較的よく行く国です。

日本で生まれた育った合気道ですが、先達の大変な苦勞によりその愛好者は世界中に広がっており現在世界95カ国にまで広がっています。日本人よりも稽古者が多い国もあり、一様に熱心に取り組んでいます。

今はその技術も高く、技だけでなく理念や日本の文化にも興味を持ち勉強しております。ですから合気道を作った開祖・植芝盛平翁が学び修行した神道の『鳥船の行』について詳しく教えてほしい、道場を新しく作るので「道場開き」に、何周年かの記念の儀式を日本式にして『神道の祭儀』をしてほしいなど塾長だからできる事、説明できる事を求められて出かけます。塾長もその期待に応え、とても詳しく説明し合気道で体現してみせます。

また、神道の儀式を外国では「Shintou Ceremony」といって稽古生に大変喜ばれているようです。道着のほかに祭典の装束を余分に持っていかなければなりませんので、荷物が多くて大変だと言いながら重いトランクを抱えて出かけて行きます。

よく「日本人以上に日本人らしい」と外国人を誉めている言葉がありますが、合気道に興味を持つ外国人はそのような人が多いように感じられます。そして、何よりも熱心です。

例えば塾長がハンガリーの講習会に出かけた時に毎年ブルガリアから12時間かけて車で何人かが来るのですが、日本で12時間、往復24時間かけて講習会に行ってきたという話は聞いたことがありません。また塾長の大学時代の同期でブラジルで指導している鹿内先生のブラジリアで講習会を開催した時には、成田からワシントンDCまで12時間、5時間の待ち合わせでそこからサンパウロまで9時間そして、ブラジリアまで2時間、待ち合わせを入れて約30時間の旅です。もう遠くてうんざりだったそうですが、講習会に来ていた人の話を聞いてみるとブラジリアから2000キロ以上離れたアマゾンからバスを乗り継いで3泊4日かけて来た人がいたというのです。木曜の夕方合宿所に入り3泊4日（日曜まで）の講習会を終え、午後からまた3泊4日かけて帰るのです。バスには5～6回乗り継ぐのだそうです。成田からよりもはるかに時間をかけて来るのです。そのバイタリティー、熱心さには驚くばかりです。講習会は2泊3日または3泊4日で、12時間から20時間も組んでいるのです。日本だと土曜日の午後に集まり2時間程度、夜は懇親会、翌日曜日の午前中2時間で、お昼には解散というパターンがほとんどだと思います。

今は日本から高段者の先生が来て講習会を開催すると言えばそれなりの人が集まっていますが、外国でも5段6段中には7段という高段の方も続々と増えております。このような熱心な外国の人達が稽古を続けていれば、何年か後には「日本から指導に来ていただくなくとも結構です」と言われる日が来ないとも限りません。逆に海外から講師を日本に呼

ぶなんて笑い話にもならないことが起こり得るかもしれません。

実際に稽古していても日本人よりもよく動くし技も知っていて演武も上手だといえます。

日本の伝統文化である合気道、開祖が学んだ神道をとおして体現する塾長の合気道が海外の人達に伝わり技だけでなく、より深く合気道を理解して稽古して頂けたらうれしく思います。また同時に、私達日本人はもっともっと真剣に稽古し「世界のお手本」となれるよう日々の稽古に精進し、学んでいかなければいけないと感じております。